

令和3年度第2回広島市立図書館協議会 会議要旨

日時	令和3年11月26日(金) 午後3時00分～午後4時30分		
場所	合人社ウエンディひと・まちプラザ北棟6階マルチメディアスタジオ		
公開・非公開の別	公開	傍聴人	1名
出席者	委員：林委員、庄委員、山崎委員、吉田委員、上田委員、前田委員 事務局：橋場市民局次長、田渕生涯学習課長、長谷中央図書館長、伊藤中央図書館副館長、野口中央図書館事業課長、原田こども図書館長		

議事(会議要旨)

1 開会

2 議事

(1) 副委員長の選任について

副委員長 庄 ゆかり 委員

(2) 今後の図書館サービスのあり方について

<説明>

資料1・資料2に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(吉田委員)

新しくできる図書館で会議室、研修室、ホールのような大人数の者が集まってできる部屋はどれくらい用意されるのか。

(生涯学習課長)

現在エールエールA館を管理している南口開発株式会社とフロアをどれくらいもらえるのか協議しており、その中で、各フロアの配置を検討していく。エールエールA館には、映像文化ライブラリーも合わせてもっていく予定で、その上映ホールを各施設でうまく活用していくことも考えている。現時点では、どれくらいのフロアをもらえるのか調整中であるため、具体的にどの程度諸室を用意しているというご説明はできない。

(市民局次長)

現在の中央図書館、こども図書館及び映像文化ライブラリーは、3施設あわせて1万㎡程度の延床面積がある。集約化するには、そのメリットを出さないといけないので、1万㎡より少なくする必要がある。会議室等は各施設で共有することで床面積を減らすことができる。

また、1万㎡となるとエールエールA館の1フロアでは収まらないので、複数フロアに3施設を配置する。ご質問の会議室やホールについては南口開発株式会社と協議していく。

(上田委員)

エールエールA館へ行くことはもう決定か。新聞等でも見たが、協議がどれくらいされたのかわからない。

事前に生涯学習課にもお伝えしたが、商工会議所の跡地やその周辺、できれば市民球場跡地に移転できないか期待していた。もしそれができないなら、広島城の南側に資料館を建てると聞いて

たが、中央図書館にも浅野文庫を所蔵しているので、図書館と兼ねてできないかとも考えたのがいかがか。決定なら仕方ないが、ちゃんと協議はしたのか。図書館長等は、異論はないのか。

(市民局次長)

図書館移転については、老朽化、書庫スペースの不足、耐震工事の未実施等の課題があり、早めに移転しなければならないという命題が一つある。そうした中で、広島市は楕円形の都心づくりといって紙屋町・八丁堀地区と広島駅周辺をそれぞれ西の核、東の核としてまちづくりを進めている。西側については、サッカースタジアム等の計画もあり、公共施設等が多く配置されている。一方東側については、JR等が開発を進めている中で、公共としても何かのかたちでまちづくりを行う必要があると考えていたところで、エールエールA館という話が出てきた。移転については、図書館長と連携しながら進めてきている。広島城については、今の駐車場があるところににぎわい施設を持ってくる計画がある。その計画については、市民局文化振興課で今まさに検討しているが、今のところ浅野文庫を持ってくるという話が出ていない。ただあそこも限られたスペースとなっている。広島城の今後のスケジュールとしては、令和6年頃に展示スペースができて、その1年後に飲食店等のにぎわい施設が入る予定である。

(上田委員)

全国の図書館を見てきたが、だいたい図書館はロケーションの良いところに建設されている。資料に明石市の図書館があったが、あそこはまさに駅からすぐのところに明石城があり、図書館の中から明石城が見える。また、三原城も駅から城壁が見える。だからただ駅前というのは違うのではないと思う。経済のこともあると思うが、長い目で見て他都市の人に広島市の図書館はここだと言えるような場所にあってほしいと思う。

(市民局次長)

市議会でもいろんな意見がある。上田委員の仰られたことも考え方の一つだと思う。ただ広島市としては、楕円形の都心づくりという考え方もあるので今の方針で進めさせていただきたい。決定かどうかと聞かれると難しいが、これから予算や新たな条例の制定等の公式な手続きを経て初めて最終決定といえるのではないかと。我々としては、お示しした資料の方針で進めていく。

(林委員長)

移転の理由の一つに今の図書館が手狭という話があったが、これからも蔵書は増えていくと思う。エールエールA館でどれくらいもつ見通しなのか。

また、中央図書館と各区の図書館は今現在結びつきが強いが、今後どのように変わっていくのか。

さらにもう一つ、現在地の近くにはひろしま美術館等もありこれまで連携してきたと思うが、これからはどうしていくつもりなのか。

移転ありきで考えるのではなく、今後のプラン等も示せばもう少し安心するのではないかと。移転によって便利になる人も不便になる人もいるだろうから、広島駅という集客の期待できる周辺の環境も巻き込んだような見通しをお聞かせいただければと思う。

(生涯学習課長)

まず、蔵書の点について、ご指摘のとおり大変手狭になっている。移転先では、最低限今ある蔵書を所蔵できるスペースを確保し、さらに余裕を持った形で確保したいと考えている。何年もつというのは今お示しできないが、2、3年でいっぱいになるということにはならないようにしたい。

区図書館との関係については、今と変わらず連携を取っていく。

美術館との関係については、現在地の跡地も引き続き中央公園内では文化芸術ゾーンとして位置づけられており、音楽ホールの建設を検討していると聞いている。

今図書館と美術館との連携については、今後2つの核の周遊性を高められると思っている。東側の図書館で情報発信を行い、そこで得た情報をもとに西側の美術館に足を運んでもらうという取り組みも考えられると思っている。

また、駅周辺には留学生会館であったりマツダスタジアムもあるのでそういった施設との連携も考えられる。

(吉田委員)

図書館を、本を借りるためだけの施設と捉えず、今までも行ってきたイベントをさらに活動的にするために、個人と個人がつながるようにするために、会議室、研修室、ホールを余裕を持って設けてもらいたい。

こども図書館が建設された当時は、科学館とホールを共有するということがあったが、やはりこども図書館独自に部屋を持っていた方が利便性が高い。

今後中央図書館と一緒にするのならそういう点で使いやすくしてほしい。欲を言えば、美術館や音楽ホールも併設していれば、本から得たものを活動へ、活動からまた本へというような循環ができると思う。

資料を見ていると、ゆっくりと本を読めるスペースの確保とあるので、これまで図書館から遠のいていた人たちも駅前ということで、たくさん利用が見込めるのではないかと期待が大きい。それと同時に本の貸出に留まらない活動がもっと発展的にできるとよい。

(市民局次長)

今のご意見を参考にしながら、今後計画を考えていきたい。

先程、集約化して面積を減らすと言ったが、大幅に減らすということではなく、現在と同規模程度の確保は考えている。

諸室の配置の考え方として、映像文化ライブラリーの上映ホールを多目的に使えないかという意見も出ているので、そういったことも踏まえながら検討していく。もちろん検討にあたっては図書館と連携しながら進めていく。

(庄副委員長)

私が初めて広島に来た当時の印象を述べると、広島市というのは特殊で駅前には街がなかった。電車で紙屋町までいくとそこに街があった。他の都市から来た者にとっては駅前に街があるのが自然だと思うがそういう意味で広島は変わったところだという印象だった。何が悪いというわけではなく、歴史的な経緯があってそういうまちづくりが行われてきたのだと思う。この度広島市が大きな決断をされて、2つ目の都心としての駅前に図書館を移すとなると、今までの市の考え方と違うことが起きるということで、これまで来ていない人が来るかもしれない、これまで使ってきた方にはご不便があるのかもしれない。でも人の流れがかわってくるので、ある意味では新しいサービスや図書館像を作る上でのチャンスと考えられる。この資料では、図書館の本来機能に立ち返るという内容だが、3つの施設を集約することによるメリットを面積だけでなく、機能面で何か案はないか。

(市民局次長)

例えばで申し上げますと、こども図書館と中央図書館を集約することで、親子で読書が楽しめるようになる。先程、複数フロアに図書館を配置するとご説明したが、一つのフロアを子供に特化

したフロアにすることで、声を出してもよいスペースを設けられるかもしれないといったところが一つ集約化のメリットと考えている。また、映像文化ライブラリーの上映ホールを多目的に利用することも考えられる。

まだ具体的なものはないが、これから皆様の意見や市民等幅広いご意見を参考にしながら集約化のメリットをお示ししたい。

(庄副委員長)

先日ライブラリー・オブ・ザ・イヤーを受賞した図書館の情報を見たが、図書館として何をやっていくかが重要だと感じた。施設はいつか古くなり、変わっていく。これから新しい図書館像をお示しいただけるよう期待している。

(市民局次長)

エールエールA館へ移転した際には、市民の方々、広域都市圏の方々、広島に来られる方々に喜んでいただけるような図書館にしていきたいと考えている。費用についても考えていかなければならないが、機能面で良いものをつくっていききたい。ぜひ図書館協議会の皆様にもご意見をいただきたい。

(吉田委員)

図書館に来られない地域に住んでいる方への利便性も考えていただきたい。例えば、安佐北区とか図書館に行くには不便な地域の方への取り組みも積極的に行っていただきたい。

(図書館長)

広島市の図書館は全市で13施設あり、どこでも予約資料の受取が可能である。また公民館図書室の本も図書館が配本しており、公民館図書室を利用される方から本のリクエストがあればそれにお応えして配本している。

さらに市内の遠隔地には自動車図書館を通じて本の貸出を行う仕組みもある。

図書館が移転したあとの運営についても、精一杯のサービスを提供していけるよう努力していきたいと考えている。そのためのサービスについてのご要望等をこの場でお聞かせいただきたいと考えている。

(林委員長)

今お話のあった公民館への配本等、中央図書館が担っている広島市立図書館の中核機能は今後どう発展させていくのか。

(市民局次長)

資料2の基本方針2に記載しているが、例えば広島の戦後復興の歴史を学んでいただいたり、他都市の教員等の平和学習に貢献できるような資料を平和記念資料館と連携しながら充実させていきたい。

また、基本方針3について、現在も力を入れているビジネス支援サービスの拡充や広島駅周辺の留学生会館等の公共施設と連携した福祉関係の情報支援等も行っていきたい。

(前田委員)

前回の図書館協議会で過去に実施したアンケート等から課題の洗い出しをしたり、それを踏まえて今後どのようなサービスをしていくか検討したと思う。今回図書館等3施設を集約するということで新しい方針が出てきたが、場所が移転することで今ある課題が解決するのかよくわから

ない。例えば中央図書館といえば、利用者数を増やすとか貸出数を増やすとか本質的な課題があるが、移転することで全て解決するのか。参考資料に駅前に移転した他都市の事例があるが、本当に本を読みに来た人が増えているのかわからない。

今後中央図書館やこども図書館が本を借りる人を増やしたいなら、ただ駅前に移転しただけでは増えないと考える。今後どうしていきたいのか考えないといけない。私自身は、必ずしも貸出数を気にしなければいけないことはないと思っているが、そうであれば、貸出数を増やすためにかけるコストを他のことに割くべき。とにかく図書館に来てもらいたいということであれば、そのための施策を講じるべき。今の資料では少し中途半端かなと感じる。場所が移転することで解決することとそうでないことを整理すべき。移転することで今までの課題が全て解決するわけではない。

また、基本方針4にデジタル化の話があるが、これは場所は関係ないと思う。利便性の向上のためには当然やっただらいいと思うが、やはり今までの課題と、移転により解決することを整理すべきと感じた。

(市民局次長)

資料には、現状の課題をしっかりと示せていないことは反省する。

いただいたご意見を参考に今後検討していく。

(林委員長)

前回広島市立図書館全体のサービスのあり方を検討した。その後プラスして移転の話が出てきたが、今回の再整備は、前回書面会議で議論した図書館サービスのあり方も踏まえたものと捉えているがどうか。

(生涯学習課長)

そのとおりである。

(林委員長)

広島市の方針として移転を前向きに捉えるのであれば、移転によって今まで目指してきた図書館像に近づくものとそうでないものの整理が必要かもしれない。

広島市が今後どのように発展し、人の流れを使ってにぎわいのあるまちをつくりあげていくのかを考える必要がある。広島駅を利用する人は広域で活動されている方だと思うので、そういう方たちとの関わり方を考えてみると非常に面白いものができるのではないかな。

(市民局次長)

改めて中央公園内の公共施設のあり方についてご説明すると、広島市の都市整備局がそれぞれの施設をどうするか検討した中で、中央図書館については駅前に移転することに決まった。その後市民局でどのようにしていくかを検討していくこととなった。お示ししている資料はその発射台のようなもので、これから今までの課題等も含めてもっと深めていきたいと思っている。

(前田委員)

今広島市では、広域都市圏でいろいろなことをする動きがあるが、広域都市圏内の市町の図書館と連携できたりするか。

(市民局次長)

現在 24 の市町が広域都市圏に加入しているが、その市町にお住まいの方であれば、図書館の

利用カードが作れる取組を行っている。

(前田委員)

広域都市圏をターゲットとした取組はまさに移転することでできるようになる取組だと思う。

(庄副委員長)

これはお願いだが、ぜひ 20 代前半の若者達の意見を取り入れる仕組みを作って欲しい。残念ながら、現在その若者達は公立の図書館には行っていないが決して関心がないわけでも、本嫌いというわけでもない。やはり図書館に行く魅力が彼らにはない。大人が考えても彼らにとっての魅力はわからない。それは今現在図書館を利用している人たちでもわからない。若者の意見を直接聞く機会を作っていただきたいし、その結果を知りたい。

(市民局次長)

今後、皆様のお力を借りながらどのようなことができるか考えていきたい。

(図書館長)

今後中学生の図書委員を図書館に招く計画もある。図書館としてもその状況を分析し、若い世代の意見も取り入れていきたい。

(林委員長)

学校図書館と中央図書館がもっと密になるような仕掛けが何か考えられないか。若い世代が学校教育を終えた後もずっと繋がっていくような取組ができないか。

(図書館長)

これから未来のある若者たちを図書館に引きつけることは大変重要なことだと認識している。積極的に取り組んで参りたい。

(林委員長)

令和 7 年度には移転が完了するというので、ハード面だけでなくソフト面について考えて行かなければならないと感じた。それは中央図書館の将来像というだけでなく、広島市全体の図書館の将来像へどのように繋げていくかを考えていきたい。

学びの機能、生涯学習を支えていく場としての図書館というだけでなく憩える場という言葉が出てきたのは非常にいいと感じた。これから 3 施設が集約されるという方向で考えていくことになる。今までは子供を連れてこども図書館へというだけだったが、今後はさらに自分もその場で学べてさらにゆっくりできるということも考えられる。そのためには、様々な仕組みを整える必要がある。今後はその点についてより良い議論ができると良い。

3 閉会

(林委員長)

これをもって、本日の会議を閉会とする。